



い～ねだより

2021年10月6日

認定NPO法人じゃんけんぽん

企業主導型保育 い～ね保育園

基本理念

『たくましく生きる力』

保育目標

『自ら感じ考え自分と周りの人を大切に作る心を育てます』

『基本的生活習慣を身につけ、心身ともに調和のとれた幼児を育てます』

『地域の人とのかかわりやふれあいを大切に、かけがえのないつながりを創っていきます』

『一人ひとりの子どもを十分に愛し、子どもの個性を受け止め、伸ばしていきます』

10月のテーマ

『おさんぽの秋～♪』

助っ人

いつもお昼寝の後に、一つの大きな机をよいしょと移動させておやつ準備をしています。その日もいつものように、大人がよいしょと持ち上げようとする、まだ歩きがおぼつかない1歳3ヶ月のT君がやってきました。そして、ガシッと机の先頭を持ちました。大人は「あれ？T君も運ぶの手伝ってくれるのかな？」と声を掛けますがそのままじっと机を持ったまま。「でも、先頭だとちょっと進めなそうだから、後ろを持つ手伝うのはどうですか？」と他の大人に促されて、移動すると・・・「うわーん！」と大きな声で泣き出しました。大きな涙をぼろぼろ流すT君を抱っこしつつ「T君もお手伝いしたかったんだね」「ありがとうね～」と声を掛けると、急に泣きやみ『えへへ』と笑顔になりました。

『あ、こんなに小さくても大人を助けたいと思ってきているんだ』そう思うと、とても胸が熱くなりました。その他の場面でも、子どもたちは大人の些細な気持ちや行動を見て、心配していたり何か出来ることないかなと頭を巡らせてくれているような気がします。もちろん逆に、例えば着替えの時に服を着ないで走って逃げるといった行動に出ることだってあります。でもそれすら、相手を笑わせて元気にさせちゃうぞー！の気持ちからなのかも。そして「抱っこしてー」と離れないのも「僕がぎゅってしてあげるよー」と大人へのメッセージかもしれません。体は小さいけれどいつも近くの人のお助っ人で在りたいと思ってきていると思うと、何だか子どもたちを見る目が変わってきませんか？子どもたちにいつもありがとうの気持ちを、忘れないでいたいものですね。



0歳児クラスも慣れてきて
関わり合いが出てきました☆



おじいちゃん・おばあちゃん
いつもありがとう！
敬老の日のプレゼントを
渡しにいました♪

